



さあ！一番長い2学期が始まりました！

今年の夏は、本当に暑かったです。クラブの練習や試合などでは、熱中症を心配していましたが、皆さんが無事に過ごせたことに安堵しています。始業式では、合田みつをさんの言葉を紹介して、幸せはどこにあると思いますか？と問いかけました。幸せは、必ずしも遠くにあるのではなく、身近なところ、自分の心の中にあるのかもしれないねとお話しました。

2学期の暮らしが、皆さん一人一人にとって幸せだと思えるように祈っています。毎日勉強できること、みんなとおしゃべりできること、合唱コンクールで歌うことや体育大会でみんなでジャンプすることなど、日々の暮らしの中に、幸せだと感じる心を大切にしてほしいと願っています。それでも、少しでもしんどいと感じることがあれば、近くの友だちや先生、校長先生でも構いませんから、相談してください。

毎日、睡眠時間をしっかりとって、朝ご飯をきちんと食べ、元気に登校してほしいと願っています。2学期は、1年間で最も学校生活が充実するときです。一人一人、具体的な目標を持って、その目標達成に向けて、頑張ってください。

戦後80年目を迎えて(平和登校から)！

今年は、戦後80年目を迎えました。日本で行われた戦争の悲惨さを体験された方々がどんどんお亡くなりになり、伝えていくことの難しさが言われています。そんな中、今年も8月6日に平和登校を行いました。平和の集会では、初めに、生徒会の5名が修学旅行の振り返りをパワーポイントによるスライドを使ってしてくれました。

さんが「沖縄戦」について、さんが「ガマ」について、さんが「ひめゆり学



徒隊」について、さんが「平和セレモニー」について、最後にさんが「基地問題」について丁寧に説明してくれました。その後、3年生全員で「オワりはじまり」を合唱し、さんとさんが、平和宣言を読み上げて全員で黙とうしました。

【平和宣言】私たちは、沖縄を訪れる前、学校で平和学習を行い、戦争の歴史や今も世界で起きている争いについて学びました。「平和」について考える中で、沖縄は多くの命が失われ、たくさんの悲しみを経験した場所であることを知りました。過去の出来事をただ知るだけでなく、「何か私たちにできることはないか」と考え、悲しみを二度と繰り返さないように、一人一人が責任を持って生きていく必要があります。「平和」は、当たり前なものではありません。私たちは、「平和」を育てるために、今日からの時間を大切に、命の尊さを胸に、行動していくことを、ここ沖縄から宣言します。世界の全ての人が幸せに、笑顔でくらすよう、心から「平和」を願います。

夏の大会を最後に3年生が引退しました！

今年度も、勝ち進んでいるクラブを残して、夏の大会を最後に多くの3年生がクラブを引退しました。私は、7月から8月にかけて、卓球部、テニス部、バスケットボール部、陸上部の順で、試合の応援に行きました。どのクラブも3年生が中心となって必死に戦いました。そこには、勝ち負けを超えた感動がありました。田尻中学校は、正々堂々としたプレーで、最後まで諦めることなく立派に戦いました。その姿は、とても美しいとさえ感じるほどでした。本当に素晴らしかったです。

また、文化部の3年生も引退を迎えました。どのクラブも運動部に負けないほどの活動をしてくれました。本当によく頑張りました。この良き伝統は次の2年生が受け継いでくれると確信しています。

第74回社明作文コンテストで入賞しました！

田尻町立中学校3年生のさんが、第74回社明作文コンテストで入賞しました。「社会を明るくするためには」というテーマで、自身が考える「明るい社会」の実現のために、「社会を明るくする運動」の重要性を丁寧に書き綴った作文です。この運動のことをとてもよく理解していることが伝



わりました。7月12日(土)に、泉佐野市のエブノ泉の森ホールで開催された第75回社明大会において、社明作文の発表が行われ、立派に読み上げる姿に感動しました。

田尻町立中学校の制服改定に向けて！

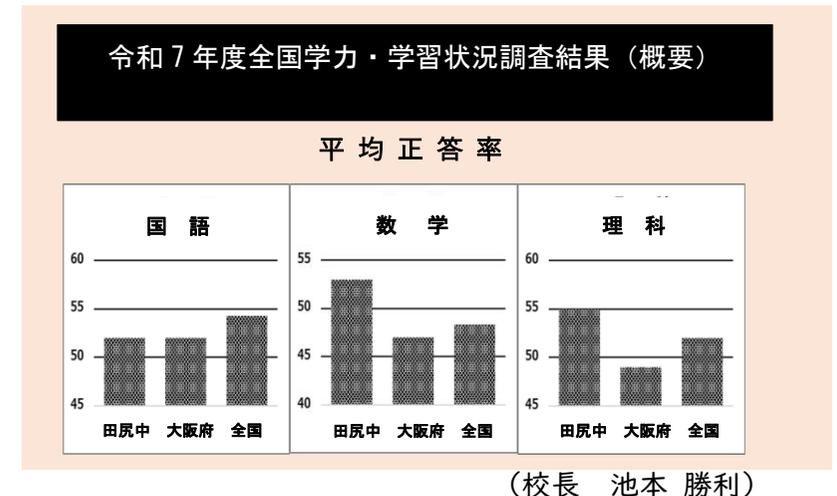
スクリーンでもお知らせしましたように、性的マイノリティーへの対応や制服スタイルについて選択を可能にするために、ブレザー型の制服へ変更する方向で検討を進めています。改定の時期は、令和9年度に入学してくる生徒の皆さんからとなる予定です。

7月18日(金)に、制服業者様に見本を持って来ていただいて、教職員の勉強会を田尻中で実施しました。機能性、経済性、デザイン性の三つの要素から考えていると思っています。汚れを弾き、家庭でも洗濯でき、伸縮性もあって着心地の良い素材が開発されています。今後は、生徒の意見を反映しながら、丁寧に進めて参りたいと考えています。



全国学力学習状況調査の結果が届きました！

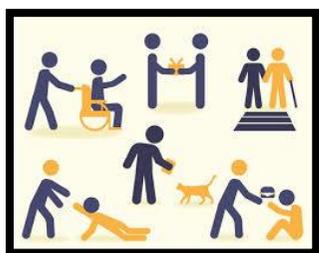
令和7年4月17日に実施した「全国学力学習状況調査」の結果が届きました。今年度は、国語・数学・理科の3教科でした。田尻町立中学校の3年生は、数学と理科で全国平均を大きく上回りましたが、国語は大阪府の平均と同じ結果でした。課題を分析して、今後活かしていきます。以下に、その結果の概要を掲載しますので、参考にしてください。



今後の予定

9/2(火)	【3年生】大阪府チャレンジテスト
9/4(木)	【1年生】モアレ検査
9/8(月)	5限後下校
9/11(木)	泉南地区英語暗唱大会
9/18(木)	中間テスト1週前 5限後下校
9/25(木)	中間テスト(~26(金))
10/3(金)	【3年生】英語検定 受検
10/9(木)	【対象者】モアレ二次検査
10/17(金)	午前:作品展示 午後:合唱コンクール
10/20(月)	生徒会 役員改選 個人相談 week(~24(金))
10/22(水)	5限後下校
10/27(月)	【3年生】第2回 学力診断テスト
10/28(火)	給食後下校(教職員研究会のため)

社会を明るくする運動~表彰作文~



「社会を明るくする運動」はすべての人が犯罪や非行を防ぎ、罪を犯した人・非行のあった学生に寄り添い、立ち直りについて理解してもらい、みんなで犯罪のない世の中のための運動です。

2年生では、毎年夏休みに「社会を明るくする運動」作文コンテストに作品を提出してこの運動に参加しています。今年も3年生1名が優秀作品に選出され、7月上旬、この運動の主催者である泉佐野・田尻保護司会より表彰されました。今回は3年生・
さんの作品をご紹介します。

社会を明るくするためには

3年

私の考える「明るい社会」とは、戦争、いじめ、貧困で苦しむ人がいない、そして誰しものが安心して暮らせる社会です。その明るい社会にするためには、「社会を明るくする運動」はとて大きく関わってくると思います。

罪を犯してしまうということは、必ず被害にあう人がでてきて、誰かを傷つけてしまうこととなります。「つい」だったとしても、罪を犯してしまった事実は変わらないし、その過去も消えません。だからこそ罪を犯してしまった事実を深く受けとめ、しっかり反省し立ち直る必要があると私は考えます。

誰しも、罪を犯してしまった人とすごく関わりたい、と思わない人が少なくないと思います。それは私も例外ではありません。このような風潮が、罪を犯してしまった人たちを立ち直りにくくしているのではないかと私は思います。このことから、周りの人が罪を犯してしまった人の立ち直りについて理解し、その思いをわかってもらうことが大切だと考えます。

「罪を犯すことは悪いこと。」それは誰しものが知っていることです。しかし、実際に犯罪件数が0なわけではありません。毎日のように殺人事件などのニュースを耳にします。ああ、私の住んでいる地域の近くではないから安心。など、一旦は画面の奥のことだから、と解釈してしましますが、この日本で起きていることにはなんら変わりありません。しかし、なんの理由もなく罪を犯してしまう人ばかりではないと思います。例えば、いじめられてかっとなって。食べるものがなくて。など、何か理由があると思います。いじめられれば嫌な思いをしますし、食べるものがなければお腹がへります。みんな何かしら罪を犯してしまうきっかけがあるのではないかと思います。だから、そのきっかけをなくすようにすればいいのではないかと、そうすれば犯罪件数は減りみんなが安心して暮らせる社会になるのではないかと考えました。そのきっかけを無くすにはどうすればいいかと考えた

き、やっぱり普段の行動などに気をつけるべきなのかと思いました。挨拶をして返してくれれば気分はそれだけで良くなったりします。「ありがとう」は言われるだけでやって良かったとすることができます。相手が笑顔だと、こちらまで笑顔になります。このように、嬉しい気持ちや楽しい気持ちは人に移るものだと思います。なので、これらのことを少しだけ意識するだけでも気持ちがほがらかになり、罪を犯してしまう人が減るのではないかと思います。

それでも、罪を犯してしまう人がいなくなることはないと思います。だからこそ、罪を犯したからといって差別したりするのではなく、ちゃんと立ち直ろうとしているんだな、理解してあげよう、など立ち直ろうとしている人たちを認めてあげることが大切だと、私は考えています。

罪を犯してしまえば、一瞬で生きづらい世界になってしまうと思います。しかし、周りの人たちが立ち直ることを理解してくれているとわかったのなら、少しは生きやすくなっていき、構成しようと思う人たちが増えるのではないかと思います。

…いかがだったでしょうか？

TVや新聞では、犯罪の発生が毎日のように報道されています。犯行内容の詳細を知るたびに「何でそんなことを…」「ありえない」など、起きた出来事や被疑者に対して疑問や許せないという感情をもちます。そして、「自分は犯罪なんてしない」…誰もがそう言うと思います。

しかし、人は自分の思い通りにいかなかったり、他人や集団とうまくコミュニケーションがうまくいかなかった時、カーッとしたり、むしゃくしゃしたり、孤独を感じたりすることが多くあります。そんな時、「つい…」犯罪に手を染めることがあるかもしれません。

さんの作文にあるように、日々の生活の中で、あいさつや笑顔を大切に生活した生活を心がけること。嬉しい気持ちを広げていく事で相手への理解を深め、罪へのきっかけとなる条件を減らしていく事につなげる。この意識と努力が私たちには求められていると思います。

(教頭 横井武志)